評議会だより

第四七七回評議会

平成七年四月十八日(火)

☆(新評議員の紹介)

文学部教授　寺地　遵
学校教育学部教授　中谷喜一郎
理学部教授　山本　修
工学部教授　松村　昌信
生物生産学部教授　山本　義雄
原爆放射能医学研究所長　佐藤　幸男
附属図書館長　前田　文之

☆(新オブザーバーの紹介)

経済学部夜間学部主事　菅　壽一(経済学部教授)
総合情報処理センター長　阿江　忠(工学部教授)
遺伝子実験施設長　宮川　都吉(工学部教授)
留学生センター長　多和田眞一郎(留学生センター教授)
アイソトープ総合センター長　山本　修(理学部教授)
地域共同研究センター長　長町　三生(工学部教授)
中央廃液処理施設長　岡田　光正(工学部教授)
学生委員会委員長　頼　祺一(文学部教授)
広報委員会委員長　越智　貢(文学部助教授)
教務委員会委員長　内田　隆(歯学部教授)

☆(本部新任者の紹介)

施設部長　藤井　滋(前信州大学施設部長)
経理部主計課長　小田野弘和(前熊本大学主計課長)
〃　経理課長　野田　泰(前広島大学管財課長)
〃　管財課長　鹿島田勝春(前宮崎大学経理課長)
学生課長　岡　宏(前愛知教育大学厚生課長)
入試課長　吉嶋　安正(前津山工業高等専門学校学生課長)

☆(教員選考報告)

大学教育研究センター
教授　山野井敦徳
教授　大塚　豊(比較高等教育研究Ⅳ)

留学生センター
助教授　黒田　則博(指導部門)

総合科学部
教授　崔　吉城(アジア研究)
教授　冨岡　庄一(社会文化研究)
教授　奈良　重俊(情報行動基礎研究)
助教授　田原　光広(英米研究)
助教授　安西　信一(英米研究)
助教授　小池　聖一(社会文化研究)
助教授　坂田　省吾(人間行動研究)
助教授　ジョー・デキサス(英語)
助教授　アリス・ハミルトン・ルサー(英語)
助教授　杉野健太郎(英語)

文学部
教授　高柳　央雄(哲学)
教授　近藤　良樹(倫理思想史)
教授　中田　高(自然地理学・地域学)
教授　古浦　敏生(言語学)
助教授　松本　光隆(国語学)
助教授　四反田　想(ドイツ語学)

教育学部
教授　三浦　省五(英語教育学)
教授　落合　洋(理科教育学)
教授　稲水　惇(体育教育学)
助教授　小池　源吾(教育社会学・教育方法学)
助教授　金　龍哲(教育行政学)
助教授　湯澤　正通(教育心理学)
助教授　松浦　伸和(英語教育学)
助教授　小山　正孝(数学教育学)
助教授　白川　博之(日本語学)
講師　高須　一(音楽教育学)
講師　酒井　弘(言語学)

学校教育学部
教授　三宅　紹宣(社会科教育)
教授　宮本　栞(生活科学教育)
助教授　山元　隆春(言語教育)
助教授　木村　博一(社会科教育)
助教授　白根　福榮(理科教育)
助教授　菅村　亨(美術教育)
講師　松本　仁志(言語教育)
講師　畠中　和生(社会科教育)

法学部
教授　ジョン・エドワード・ピックロン(公法)
教授　田邊　誠(民事法)
教授　渡邊　満(政治)
教授　牧野　雅彦(政治)
助教授　アンナ・マリア・バルテルスーイシカワ(公法)
助教授　岡本　友子(民事法)

経済学部
教授　吹春　俊隆(理論・計量経済学)
教授　野本　了三(経済政策)
教授　森岡　敬史(応用経済学)
教授　鵜野　好文(経営・情報)
助教授　佐々木隆志(経営・情報)
講師　福地純一郎(理論・計量経済学)
講師　文　柄烈(経済政策)

理学部
教授　隅廣　秀康(代数学)
教授　平良　和昭(微分方程式)
教授　高畠　敏郎(磁性体)
教授　月向　邦彦(界面物性)
教授　田中健一郎(非金属物性)
助教授　佐伯　修(位相数学)
助教授　クラウス・ヨッヘン・エンゲル(関数解析学)
助教授　中木　達幸(応用解析学)
助教授　五島　直樹(分子形質発現学)
講師　小杉　俊男(固体物理学)

医学部
教授　緒方　宣邦(生理学第二)
教授　栗栖　薫(脳神経外科学)
教授　田中　義人(臨床看護学)
教授　山村　安弘(地域・老人看護学)
教授　川眞田聖一(基礎理学療法学)
教授　大成　淨志(運動・代謝障害理学療法学)
教授　西村　良二(身体・精神神経障害作業療法学)
助教授　頼岡　徳在(内科学第二)
助教授　佐倉　伸夫(小児科学)
助教授　末田泰二郎(外科学第一)
助教授　梯　正之(健康科学・基礎看護学)
助教授　成田　伸(臨床看護学)
講師　有廣　光司(病理学第二)
講師　石岡　伸一(内科学第二)
講師　三森　康世(内科学第三)
講師　ノーマ・ジョーン・ジョンソン(身体・精神神経障害作業療法学)

医学部附属病院
教授　木平　健治(薬剤部)
助教授　丸山　高司(手術部)
助教授　北浦　照明(薬剤部)
講師　郡山　達男(第三内科)
講師　隅田　昌之(脳神経外科)
講師　工田　昌也(耳鼻咽喉科)

歯学部附属病院
講師　田中　浩二(第二口腔外科)
講師　田口　明(歯科放射線科)

工学部
教授　長谷川　徹(発酵工学)
教授　山田　隆(発酵工学)
教授　佐々木　康(建設構造工学)
助教授　佐々木　元(機械材料工学)
助教授　藤田　聡(回路・システム工学)
助教授　都留　稔了(化学工学)
助教授　奥村　誠(地域環境工学)
助教授　渡邊　明英(地域環境工学)

生物生産学部
助教授　古澤　修一(衛生微生物学)

生物生産学部附属農場
助教授　谷田　創

大学院国際協力研究科

教授　中山　修一(教育開発)
教授　井上　星兒(教育開発)
教授　笠井　達哉(教育開発)
教授　田畑　佳則(教育開発)
教授　村上　誠(文化動態)
教授　上原　麻子(文化動態)
助教授　岩崎　秀樹(教育開発)
助教授　ケシャブ・ラル・マハラジャン(文化動態)

(報告)

一. 牟田学長補佐の理学部長就任理由による辞任の申し出を受理し、戸田及び松浦学長補佐の担当事項を「大学改革担当」に変更する旨報告があった。

二. 各部局等から提出された平成八年度新規概算要求事項(要求件数…一〇八件)について報告があった。

三. 「教育・研究」に関する自己点検・評価について、報告書として取りまとめが終わった旨報告があった。

四. 生物生産学部と中華人民共和国四川農業大学との間の学術交流に関する協定の締結について報告があった。

五. 学長の西条勤務について報告があった。
勤務日　原則として毎週木曜日
勤務場所　旧事務局分室

六. 庶務部庶務課に大学改革推進事務室を、庶務部に統合移転完了記念事業推進事務室を、四月一日付けで設置した旨報告があった。

七. 薫風寮が、三月三十一日をもって閉寮した旨報告があった。

(議事)

一. 広島大学自己点検・評価規程の改正及び広島大学自己点検・評価規程制定についての了解事項(平成四年五月十九日評議会)の廃止について
原案のとおり承認した。

二. 外国人教員の任期について
陳旭彦助教授の任期を原案のとおり承認した。

三. 学部教育の改革について
各部局で検討の上、次回の評議会に諮ることとした。

四. 広島大学教養的教育検討委員会規程の改正について
各部局で検討の上、次回の評議会に諮ることとした。

五. オブザーバーの追加について
当面、学長補佐のオブザーバー出席を承認した。

国際協力研究科に第二専攻設置される

本学初の独立研究科である国際協力研究科では、開発科学専攻に次いで教育文化専攻が設置され、去る四月二十四日、総合科学部第一会議室で入学式が行われた。

式には、原田学長をはじめ、総合科学部長代理の金田晉評議員、間田学校教育学部長、武村重和教育学部評議員などの来賓が出席し、三十一名の学生に対して入学を許可した。

原田学長に続いて挨拶に立った山下研究科長は英語で挨拶をし、英語での教育を重視している同研究科ならではの光景も見受けられた。

理学研究科遺伝子科学独立専攻博士課程後期の発足

去る四月二十六日、理学研究科で、遺伝子科学独立専攻博士課程後期の入学式とその発足を祝う祝賀会が行われた。

入学式には、原田学長、西村学生部長、事務局長、牟田理学研究科長をはじめ多くの来賓が出席した。引き続き行われた祝賀会は、上記の来賓に加えて、他学部の長、前・元理学研究科長、事務長、理学部評議員、遺伝子科学独立専攻の教官など多くの教職員の出席のもとに盛大に行われた。

同専攻は、遺伝子科学の教育・研究を目的とする独立専攻として平成元年に計画されたが、概算要求三年目の平成五年に、遺伝子科学独立専攻(博士課程前期)の形で文部省により認可されるに至っている。その後二年を経て、このたび博士課程後期がさらに認可されたわけである。なお、初年度の入学生は十名(定員九名)であった。

本専攻博士課程後期の発足は、大学院重点化を目指している本学にとって、きわめて喜ばしいことである。

フレッシュマン・スタート・フェスタ開催される

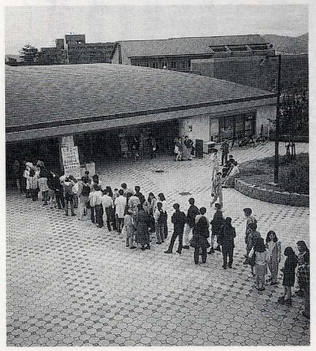
去る四月十六日、体育会主管で新入生歓迎企画が行われた。今年度はじめて実施された、名付けて「フレッシュマン・スタート・フェスタ」。約四〇〇名ほどの新入生の申し込みがあった。

あいにく天気には恵まれなかったが、南グランドで、長縄跳び大会、クイズ大会、ステージ企画などを楽しんだ。

この行列は?

あなたは、西条キャンパスでの昼食をどのようにしてとっているのだろうか。弁当? それならOK。ゆっくりと時間をかけて愛妻弁当やおふくろ弁当を楽しむことができる。

だが、学食を利用するなら、それなりの覚悟が必要だ。まずは時間差の計算。それが叶わないときには、忍耐の鍛錬。次の写真をよくみよう。西条の生活は「食」を見つけるにあり!



(写真提供—文学部三年、古川久美子、北村久美子、迫恵美)

NHKテレビ「新日本探訪」で西条キャンパスが紹介される

五月三日(水)午後十時三十五分から約二十分にわたって、東広島市のアパート経営者と学生たちの交流を描いたドキュメントが放映された。

タイトルは「街にキャンパスが来て〜東広島 学園都市の農民たち〜」で、のどかな田園風景のなか、自転車を漕いでキャンパスに向かう学生の姿からカメラは回り始めている。久米明氏の朴とつとした語り口は、「新しいキャンパスにやってきた学生は一万四千人。東広島市の人口の実に十人に一人は広島大学の学生なのです」と続く。

話は、二組の学生アパート経営者と学生たちとの交流を中心に展開していく。少しでも新鮮な野菜を学生に食べさせようとアパートの裏の畑に季節の野菜を植える溝垣さん、自炊する学生のためにアパートの横に小さな総菜屋を作り、月に千円分のチケットを無料で配る大橋さん。

兼業農家であったが、減反政策によって「農地を遊ばせておくにはもったいない」と考え、初めてのアパート経営に乗り出した溝垣さんたちは、「家におったんじゃあ、新しい人と話すのは一年に一回か二回。自分も七十歳になり、若い人たちとつきあうことで、何となく若い気分になる」という。同時に「せっかく遠いところからおいでなさったんじゃから、わが子同様にかわいがってあげにゃあ」との気持ちもあるようだ。

「バスの乗り方もわからないし、不便かもしれない」と新入生はつぶやく。しかし、何よりも西条の星空は美しい。ふと、次の一文が思い出された。「…目を上げた途端、さあと音を立てて天の河が…流れ落ちるやうであった」。(川端康成作『雪国』より)